

令和4年度 第3学年 授業改善推進プラン

昭島市立拝島第二小学校

	指導の実態及び課題	具体的な授業改善策
国語	<p>○話し手が伝えたいことの中心を捉えて聞くことに、課題がある。</p> <p>○自分の考えと、それを支える理由や事例との関係を明確にして書くことに、課題がある。</p> <p>○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。</p> <p>○主語と述語の関係や、指示する語句と接続する語句の役割について、理解が十分でない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メモの取り方や質問の種類、質問の仕方などを国語科の授業で指導した上で、他教科の活動でも活用する。 ・朝学習の時間を活用し、短い説明文を使った読み取り・自分の考えを他者へ伝える学習（10チャレ）を、年間通して継続的に行う。 ・本校の授業改善のポイントを踏まえ、国語科を中心に据え、各教科等の授業と朝学習の時間において、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」の場面とのカリキュラム・マネジメントを図る。 ・音読に積極的に取り組ませることで、物語の大まかな内容を捉えられるようにする。また、登場人物の気持ちの変化を捉える際には、心情グラフなどを活用して、気持ちの変容を視覚化し、なぜこのような変化が起こったのかを考えさせる授業展開にしていく。 ・視写や音読、板書を通して、主語や述語の関係や、指示する語句と接続する語句の関係を、一つ一つ見えるようにして意識させる。
算数	<p>○目的に応じた単位で、量の大きさを的確に表現したり、比べたりすることに課題がある児童が多い。</p> <p>○波及的繰り下がりのある計算を正確にできない児童が、3割ほどいる。</p> <p>○文章問題では、何が分かっているかを問われているのか、どういう場面かが理解できないため立式できず答えを求められない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1kmを実際に歩くなどの、実感を伴った学習を積極的に取り入れしていく。 ・数カードによる操作の活動を繰り返し行い、数に対する感覚を身に付けさせる。また、百の位から十の位へ繰り下がる考え方は、十の位から一の位への繰り下がりと同じ考え方で処理できることを、再度指導する。 ・問題文を読む際には、何が分かっているかを求める問題なのか線を引かせて考えさせたり、場面を図に表して考えさせたりして、立式させる。練習問題や思考力・判断力・表現力を問う自作テストなど、習得した知識を活用する問題を繰り返し取り組ませる。
理科	<p>○植物や昆虫の観察では、観察の視点に沿って記録することができない児童がいた。</p> <p>○見通しをもって観察、実験に取り組む児童もいるが、一定数の児童が、見通しをもたずに観察・実験などの活動に取り組んでしまっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点は、年間を通して同じ視点で指導する。また、観察カードの書き方を例示し、容器や天候などを記録するのではなく、植物や昆虫の特徴を分かりやすく記録するよう指導する。 ・何を知りたいのか、確かめたいのかを明確にして、問題を設定して、予想を立て、観察・実験を行う。その結果の整理、考察等、各段階を押さえ、何が分かったのか、確認しながら指導をする。特に、問題づくりを児童の思考・言葉で立てる。
社会	<p>○1つ1つの個別の情報を理解することはできるが、個別の情報を関連付けて、より高次な情報を組み立てることに課題がある。</p> <p>○既習事項や生活経験と結び付けて、学習を深めていくことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料（連続テキスト、非連続テキスト）から多面的・多角的・総合的に考えをもたせる場面を多く設定し、抽象的な理解や概念的な理解へつなげていく。 ・単元の導入時に生活経験や既習事項を振り返ったりする時間を設定し、今回の学びと関連しそうな部分を、児童に考えさせる。 ・また、学習したことをまとめた掲示物を作成し、学びの連続性を捉えやすくする。
音楽	<p>○リズム感をもって歌ったり、お互いに聞き合ったりすることで表現する意識を高めるように指導しているが、言葉のまとまりや意味を理解して歌唱表現する児童は少ない。</p> <p>○リコーダー演奏は、リコーダーの基本的な吹き方や音色に注意させて指導している。基本的な技術習得に加え、互いの音色を聞き合う指導を行っているが、不十分な児童が若干名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の意味を考えたり、言葉のまとまりを意識したりして、工夫して表現できるように各題材の中で指導する。 ・息づかいや音色に対する意識を高めさせ、音色を自分でコントロールできるように、その方法を児童に発見・共有させる。
図画工作	<p>○絵の具に混ぜる水の量を調整することや、下の色や隣の色が乾いてから塗ることを指導しているが、適切に絵の具を使って描いたり塗ったりすることができない児童がいる。</p> <p>○豊かで面白い発想をする児童が多いが、表現技術の未熟さから、描いたものが何かが伝わりにくい児童が見られる。</p> <p>○初めて使う金づちで、指を打ってしまった児童が1割程度いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導で実演したりすることで、絵の具が乾いてから隣の色を塗る、色を重ねる等の指導を行う。また、こまめに机間指導を行い、絵の具の使い方に慣れさせる。 ・自分の思いを形にすることができるよう、描画材の掲示資料を活用したり、実際に小さなサイズの紙などを使って「お試し」をさせたりする。 ・初めて使う金づちの指導の際は、教師が実演するところをよく見させる。また、ケガをしない使い方について、分かりやすく指導する。状況に応じて、担任にも授業に入ってもらい、複数で机間指導を行う。
体育	<p>○器械運動やボールを使った運動は、日常的な経験の差が大きく反映されており、苦手意識のある児童もいる。</p> <p>○チームで作戦を練って試合をする楽しさを見いだす楽しさを感じられていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域においても、段階的な指導を意識して行う。動きのポイントをはっきりと明示することで、児童間でこつを伝え合わせるとともに、上手な子の動きを見るときに参考にさせる。 ・簡単に明確なルール提示を心掛ける。十分な作戦タイムの確保や、上手なチームの良い所を見せて、何が良かったのかを考えて取り組めるようにさせる。 ・年2回の体力テストの実施と、その分析に基づいた授業を行うとともに、コオーディネーショントレーニングを実施し、児童の運動能力の向上を図る。
道徳	<p>○道徳的価値となかなか実行できない人間の弱さとの間で葛藤する気持ちを、自分事として捉えることが難しい児童が多い。</p> <p>○道徳の授業で学んだことと、自分の生活を結びつけて振り返ることができない児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材に自己投影するだけでなく、友達との意見交流を通して、他人の考えに触れる機会を増やし、様々な考え方があることに気付かせる。 ・振り返りの際に、「今日の学習で大切だと思ったことは何か。」「今までの自分は、大切だと思ったことはできていたか。」「今後の生活に、どう生かしていくか。」という視点で、振り返りを書かせる。
外国語	<p>○A L Tの発音を注意深く聞くなど、意欲的に活動しているが、何について話しているかを理解できずに、活動への参加意欲が下がってしまう児童が3割程度いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A L TとのT Tの授業の前に、該当単元で扱う英語での表現の仕方と意味を、フラッシュカードやゲーム、歌などを交えて指導することで、A L Tの話の単語部分だけでも聞き取れることができるようにする。
総合	<p>○昭島市民科（総合的な学習の時間）の学びが、自分の生活と結びついているという実感をもてていない。</p> <p>○事実認識はできるが、意味認識や価値認識の段階までは至っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童によって、経験の差が大きいため、体験活動を多く設定することで、経験の差を埋めていく。 ・また、学年だよりや保護者会などを活用して、地域の活動への積極的な参加を促していく。 ・複数の視点からの事実認識が行えるように、補助資料などを事前に準備しておく。また、情報の価値を高めていくために、複数の情報を比較・関連付けて考える時間を設定し、情報の見方や考え方を養っていく。
特別活動	<p>○計画委員会や学級会で決めた役割を、全うできない児童がいる。</p> <p>○学級力スタンダードの結果を基に解決策や改善策を話し合い、学級で取り組むことを決め、実践を重ねてきた。年度当初の課題は解決に向かっているため、新たな目標の設定が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会で決めた活動を行った後の振り返りで、役割についてはどうだったかを振り返り、次の活動を行う際には、どのようなことに気を付ければよいか対策を立てる。 ・学級力スタンダードや、学級会の振り返りを通して、課題の解決に向けた取組内容を決定し、実践に移していく。また、学級会での話し合いの際には、必ず「学級の目標」を基盤として、話し合いを進めさせる。